

実践例5 保健センターを中心とした支援の推進—健やかな親子関係の確立支援を目指して—

母親の育児不安の解消と子どもの健やかな成長のために、妊娠期から一貫した母子支援事業を展開している。特に、妊娠期及び乳幼児を持つ母親がリラックスして育児ができるよう、精神的・身体的支援の充実を図り、母親の育児環境を整えるとともに、家族・地域に対しても、母乳育児の重要性を伝え、地域ぐるみで応援する環境づくりの整備を図っている。

〈授乳期の育児支援の推進例〉

市の概況：人口 66,064 人、年間出生数 662 人、出生率 10.0 (出生数千対)

○平成9年：・妊婦教室で母乳育児の講話と乳房ケアを開始。妊婦の食事調査を実施。

- ・両親学級を開講し、父親の育児参加を支援。助産師の講話と実技を導入。
- ・赤ちゃん学級を開講し、小児科医の講話等により育児不安の軽減に向けた支援。

○平成12年：「おっぱい育児支援事業」として総合的な取組を開始。

(教室)・おっぱい育児教室を開講し、個別の乳房ケアと育児指導を実施。

- ・赤ちゃん学級を、個別支援と仲間作りの場とする。

(親の会)・1歳までの育児サロンを月1回開設し
育児不安の軽減をねらいとした支援。

- ・1歳以上の親子サロンを月1回開設し
親の会の育成を支援。

(基盤整備)・情報提供の推進 (母子手帳交付時にパンフレット配布等)。

- ・産婦人科医との連絡会議を開催 (年1回)。
- ・小児科医との連絡会議を開催 (年1回)。
- ・芳賀赤十字病院「おっぱい外来」との連携推進。
- ・三つ子の魂育成推進室を設置し、地域全体で支える体制を整備。

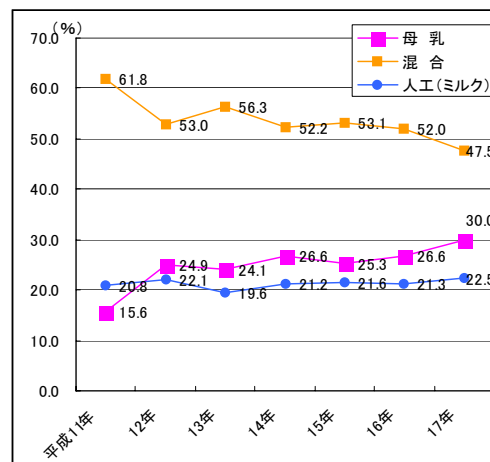
○平成15年：・子育て相談 (月1回) で母乳育児相談を開始。 4か月健診における栄養方法の

- ・離乳食教室を開講し、食生活や子育て全体を支援。年次推移 (平成11年～17年)
- ・生後2ヶ月までの乳児に電話育児相談を実施。

○平成16年：多胎児家庭の育児支援を目的に、ふたごのサークルを開始。年2回、土曜日または日曜日に実施。

○平成17年：・母子健康手帳交付時に妊婦指導でアンケート調査を実施。ハイリスク妊婦の早期発見と早期支援に取り組む。

- ・各教室のスタッフの充実を図り、母親の精神的・身体的支援をきめ細かに実施する体制を整備。



健やかな親子関係の確立支援

(提供：真岡市)

実践例6 退院後も安心して子育てができる、乳幼児がいても安心して外出ができる母子に優しい支援を目指したアプローチ

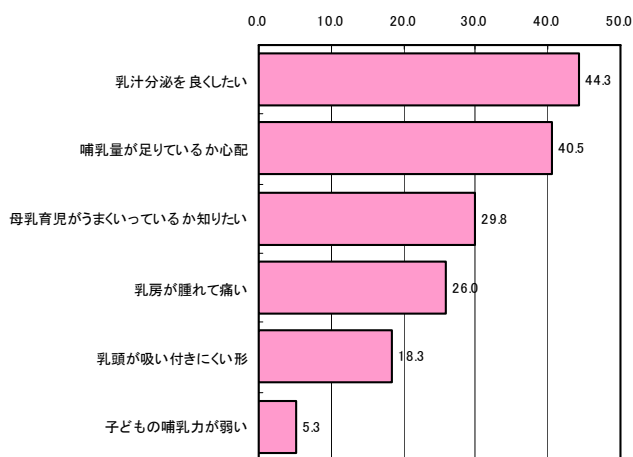
安心して子育てができる「産後の育児支援」の推進

産後の育児支援事業では、産後のお母さんが安心して子育てができるよう、助産師がお手伝い。（年間出生数 平成 17 年 4,078 人）
年間利用者数は 926 人、延べ人数 1,198 人（平成 17 年度）。

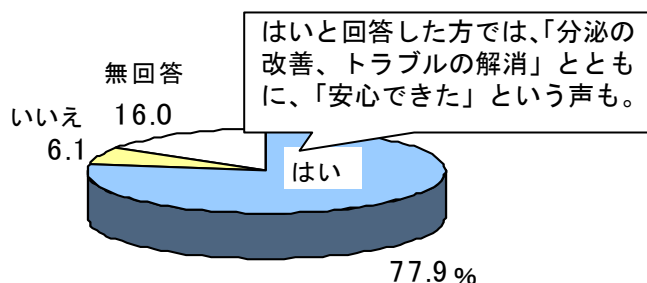
	沐浴サービス	乳房の手当
内 容	お母さんにかわって赤ちゃんをお風呂に入れたり、入れ方や洗い方などのアドバイスもします。	乳房のトラブル（しこりや母乳が出にくいなど）にマッサージをして母乳の出やすい状態にします。
期 間	生後 28 日以内	産後 120 日以内
回数	合わせて 9 回まで（例：沐浴サービス 3 回＋乳房の手当て 6 回＝9 回） ※同時に利用することもできます。	
料金	各 1 回につき 600 円（沐浴サービス＋乳房の手当＝1200 円）	

○利用者の多くが「初めての出産」（80％）で、核家族（93％）。

○「乳房マッサージ利用のきっかけ」では、母乳育児に関する悩みや心配、不安があがっている。（％）



○「乳房マッサージを利用して困りごとや心配はなくなった」という回答は 77.9％。



資料：産後の育児支援アンケート調査結果。平成 16 年 10 月～12 月に実施。228 通配布、131 通回収（回収率 57.5％）

乳幼児がいても安心して外出できる「赤ちゃんの駅」を通した環境づくり

乳幼児を育てる保護者への子育て支援の一環として、区立保育園・児童館などを「赤ちゃんの駅」に指定し、外出中の親子が授乳やオムツ替えのために気軽に利用できるよう環境整備を図っている。

〈実施施設〉区立各保育園（45 園）、各児童館（37 館）、親子交流サロン「いたばし 0・1・2（おいっちに）ひろば」及び「なります 0・1・2（おいっちに）ひろば」。

実施施設の玄関先にある「赤ちゃんの駅」のフラッグが目印。

* なお、指定された施設では、防犯対策や衛生管理等の感染防止対策にも十分配慮して実施している。

（提供：板橋区）